

ば ば 旧馬場家住宅が公開されました



汽船 北陸丸

馬場合資会社（馬場家が設立した海運会社）が
1903（明治36）年に購入



北前船の船絵馬
旧森家住宅（旧馬場家住宅隣）
にて展示中

※1 廻船問屋…江戸時代から明治時代初めまでの間、港で船を手配したり、積荷を集めたり、
または船荷の売買取引を行うなど、商船に対する様々な仕事を行った業者。
馬場家は廻船問屋であると同時に、北前船の船主でもありました。

馬場家とは？

富山市岩瀬地区の馬場家は江戸後期より活躍
した北前船主・廻船問屋の家です。

馬場家は北前船を数多く所有し、交易を活発
に行いました。当家は「岩瀬五大家」（岩瀬を
代表する北前船主の家）の筆頭に挙げられ、
さらに北陸の「五大北前船主」の一つにも数え
られています。

明治中期、馬場家は従来の北前船経営から
汽船経営に切り替え、近代的な海運業者へと
成長しました。また、銀行の設立など、海運業
以外でも、富山の産業振興に貢献しました。

・北前船とはどのような船でしょうか。活躍した時代や取りあつかった荷物、商売の方法、寄港地などに注目してみましょう。

富山の教育を発展させた馬場はる



馬場はる

（1886－1971年）

写真は1933（昭和8）年撮影



旧制富山高等学校校舎

県内唯一の 旧制高等学校設立を実現

馬場はるは、下新川郡泊町（現在の
朝日町）の旧家、小沢家に生まれました。
十五才のとき、馬場家八代当主道久の
息子、大次郎（後の九代当主道久）の
妻となりました。

ところが、一九一九（大正八）年、
夫が三十八才の若さで亡くなりました。
跡継ぎである息子の正治はまだ十三才
と幼く、当時三十三才であったはるが
一家を守る立場となりました。

また、はるはこれまでに馬場家が築
いたばく大な財産を有効に使いたいと
も考え、社会貢献のため各所に寄附を
行いました。なかでも特筆すべきなの
が、旧制富山高等学校（現在の富山大学
人文学部・理学部）設立のための寄附
でした。

当時、県内に高等学校（高校）はあ
りませんでした。はるはそのことによつ
て勉強を続けることができず困ってい
る富山の子どもたちを救いたいと考え、
高校設立のための寄附を決めました。
一九二三（大正十二）年五月、高校
設立にと県に申し出た寄附金額は当時
のお金で百万円。その後も寄附を続け、
総額で百六十万円（今の十〜二十億円程
度）もの巨額の資金を提供しました。
旧制富山高等学校は一九二四（大正
十三）年に開校し、翌年には現在の蓮町
に新校舎ができました。跡地は現在、
馬場記念公園となっています。同校が
廃止された一九五〇（昭和二十五）年ま
での卒業生は約三千三百名で、様々な
分野で活躍する、優秀な人材を多く輩出
しました。
※2：当時の高等学校は現在の高等学校と制度が
異なるため、「旧制」と記しました。
また、文中の「高等学校」「高校」はいずれも
旧制の高等学校を指します。

・旧制富山高等学校が設立された当時はどのような時代だったのでしょうか。特に当時の文化や教育について調べてみましょう。

ヘルン文庫の寄附

現在、富山大学附属図書
館には、明治時代の作家と
して有名なラフカディオ・
ハーン（小泉八雲）の旧蔵書
「ヘルン文庫」が収蔵されて
います。

ギリシャに生まれたハーン
は、一八九〇（明治二十三）
年に来日し、「耳無芳一の話」
や「ろくろ首」、「雪女」な
どを収めた『怪談』他、数々
の作品を残しました。実は
このヘルン文庫もまた馬場
家から寄附されたもののな
のです。

ヘルン文庫は現在でも、
多くの研究者や市民によつ
て活用されています。



ラフカディオ・ハーン 現在のヘルン文庫
（1850－1904年）
（写真はともに富山大学附属図書館提供）



国登録有形文化財 旧馬場家住宅について

岩瀬地区には、馬場家の人々が住んでいた住宅「旧馬場家住宅」が残っています。今回約三年をかけて改修工事が行われ、二〇二一（令和三）年一月より一般公開が始まりました。

当住宅は一八七三（明治六）年の当地での大火の後、以前の部材を一部用いて建てられたと考えられています。正面に「スムシコ」と呼ばれる竹のすだれの格子（こうし）を設けた町家（まちや）（商家）造りで、岩瀬には今でもこうした町家が多く残っています。

その中でも当住宅は最大規模の大きさで、長さが三十メートルもあるトオリニワ（屋内通路）や三十三畳もの広さのオイ（広間）など、見どころが多いです。

生活と商売の場であった主屋以外にも、四つの蔵と西門・西堀が現存しています。裏門である西門の外側は現在道路になっていますが、北前船交易が盛んだった当時は神通川に面していたため、荷物を船に積み込んだり、蔵へ運び込んだりしやすい造りになっていました。当住宅は二〇一六（平成二十八）年八月に国の登録有形文化財となりました。

当住宅には現在、馬場家と岩瀬の歴史について紹介する展示コーナーがあります。ここで当地の歴史を学んだ後は、ぜひ町中を散策してみてください。また、来館の際は電車（富山地方鉄道富山港線）や富岩水上ラインを利用してみましょう。これらも実は当地の歴史と深いつながりがあります。このことについては、当展示コーナーでも触れています。



トオリニワ（屋内通路）



オイ（広間）



旧馬場家住宅外観（表側）

旧馬場家住宅

富山市東岩瀬町107-2 富山地方鉄道富山港線「東岩瀬」駅より徒歩約10分 電話 076-456-7815 休館日 12/28~1/4、臨時休館あり
開館時間 午前9時~午後5時（入館は午後4時30分まで） 観覧料 馬場家のみ：大人100円、森家との共通券：大人180円、高校生以下無料

HP▶



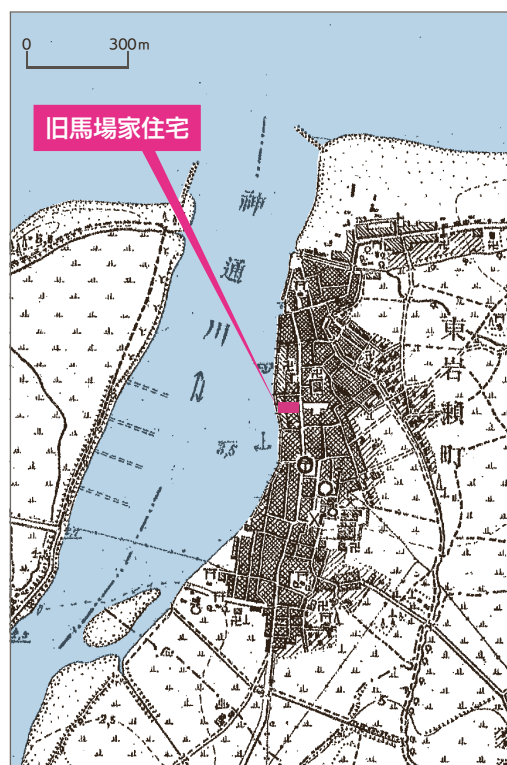
地図でみる 岩瀬



現在の岩瀬地区周辺図
（地理院タイルを加工して作成）



現在の岩瀬地区中心部
（地理院タイルを加工して作成）



明治末期の岩瀬地区中心部
（1910年測図、2万分1地形図「東岩瀬」

<大日本帝国陸地測量部作成、1911年発行>を縮小・加工して作成）

- ・富山市内の北前船に関する文化財は、旧馬場家住宅の他に何があるでしょうか。
- ・現在と明治末期の岩瀬地区中心部の地図を見比べてみましょう。どのような変化が読み取れますか。